

令和6年7月18日

魚沼市議会議長 森島 守人 様

産業建設委員会  
委員長 渡辺 一美

### 産業建設委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

#### 記

- 1 調査事件名 (1) 行政視察の総括について  
(2) その他
- 2 調査の経過 7月18日に委員会を開催し、上記事件について協議した。  
所管事務調査について、7月9日、10日の行政視察の総括を行った。  
その他で、浅草山荘設備の破損について執行部から説明を受け質疑を行った。

## 産業建設委員会会議録

1 付議事件

(1) 行政視察の総括について

(2) その他

2 日 時 令和6年7月18日 午前11時20分

3 場 所 本庁舎3階 委員会室

4 出席委員 桑原郁夫、星 直樹、浅井宏昭、渡辺一美、佐藤 肇、本田 篤  
(森島守人議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 小島産業経済部副部長、曾根都市整備課長

7 書 記 坂大議会事務局長、椛澤議会事務局次長

8 経 過

開 会 (11:19)

渡辺委員長 それでは、定足数に達しておりますので、ただいまから産業建設委員会を開会いたします。本日の議事日程は配付のとおりであります。

(1) 行政視察の総括について

渡辺委員長 日程第1、行政視察の総括についてを議題といたします。先日の7月9日から10日までの行政視察は本当にお疲れ様でございました。委員の皆様から報告をいただき、1枚にまとめさせていただきました。ここでは時間の都合上、お一人ずつ簡潔に感想等をお願いしたいと思います。皆様のお手元に報告書は来ていると思いますが、後ろのほうに考察・所見・課題・提言等ということです。

まず、スバルの群馬製作所矢島工場のことについて、桑原委員のほうから簡単に結構ですので感想をお願いいたします。

桑原委員 いい研修をさせていただきました、ありがとうございます。試乗もさせていただいて非常にびっくりしたところもありますが、本当によかったです。スバルのカメラが世界基準になって交通事故ゼロになっていただきたいと思います。

星委員 こうやって研究開発することによって人の命を守ることができるんだと、ただ便利になるだけではなく命を守ることができる開発もあるんだというのを感じて聞いて

いました。

浅井委員 雪国での利用はまだ開発途中だったので、これからの話になると思いますけれども、雪国での利用ができるようになれば魚沼でも役に立ってくれるのではないかと思います。あと、踏み間違え等の抑制する機能がたくさんついていたので、高齢者向きだと思います。

本田委員 福祉文教委員会から産業建設委員会に異動させていただいた中で、自動運転というものを言い出しっぺとしてさせていただきました。福祉における公共交通の延長というところで自動運転を話し、ここが所管ですので視察をさせていただきましたけれども、今、公共交通で知恵を絞ったりお金をかけたり、ああでもないこうでもないといろいろと悩みながらやっておりますが、自動運転が普及すればこういった問題は基本的に解決できると感じました。テクノロジーの進歩が人を幸せにするということの代表例かなと思いますので、やはり委員会としてもこういうところは今後も関心を持っていけたらなと思っております。

佐藤（肇）委員 スバルについては、委員会としての直接の部分はどういった形で見いださうか、いろいろ悩んで視察の申込みをさせていただきました。自動運転というのは、しかしながらまだまだ非常に難しい部分があるという中で、事故を未然に防ぐ考え方を元に今いろんな開発がされているのだと勉強させていただくことができました。通常の見学コースではなかなか体験できない、実際に車に乗ってみなければ分からないことを初めて体験し、やはり感動しました。

渡辺委員長 それでは委員長としてですけれども、この自動停止システムがきちんと新車に搭載されるようになったわけですが、それが普及するようになれば、それこそ気を失ったりですとか高齢者の踏み間違えですとか、いろんな面で事故を防げると感じました。また、このシステムが世界をリードしたということは、日本人として誇りに思った次第です。

森島議長 大変ありがとうございました。スバルの技術について再確認をさせていただきましたし、高齢者の多い魚沼市におきましてはやはり生活の足は車であると感じながら聞かせていただきました。ぶつからない車、夢は交通事故ゼロということですので、スバルの試乗をしてきたことだけではなく、さらに交通事故ゼロということを別の視点からもやはり大事にしていかなければならないということを確認してきた研修であったと思います。

渡辺委員長 それでは、執行部にも同行いただきましてありがとうございます。代表して小島副部長のほうから一言いただければと思います。

小島産業経済部副部長 先日は大変お疲れ様でございました。スバルについてでありますけれども、今までの視察研修ですと実際に施設を見学したりとか、スライドを見させていただいて話を聞くといった内容が主でございました。ただ、今回のスバルの視察につきましては実際に車に乗って体験ができて、やはり実際にそういう体験を通すと記憶に非常に残ったなという印象があります。普段はなかなかそういう経験ができませんでしたので、それを実現していただいた副委員長には感謝を申し上げます。私の車にも実は、アイサイトではないんですが自動運転、停止する機能があります。実際にそれを試す機会がありませんでしたが、やはりそういうのが付いてるといざというときに安心だということが分かりました。いずれは自動運転というものがそれぞれの市町村にも普及して、公共交通、バス等にも搭載されて市内で運行できればいいなというふうに感じました。

渡辺委員長 次に、千葉県の木更津市役所で聞かせていただきました、電子地域通貨アクアコインについてを報告いただきたいと思います。

桑原委員 これも非常にいいシステムだと聞いておりましたが、星委員が書かれているようにデメリットも聞けばよかったなと思ったり、調べておけばよかったなというところが感想です。あとは、地域通貨があることは非常にいいことだと分かるんですが、限界的なところも知りたかったなと思います。変な言い方ですみませんが、以上です。

星委員 ここに書いてあるとおりになんですが、アクアコインは市内でお金を循環させるためには非常にいいことだと思いますけれども、どんなデメリットがあったのか、帰りのバスの中で思いました。利用率を聞いたときに、個人的には利用率が非常に低かったかと印象に残っています。

浅井委員 アクアコインについては便利なシステムだと思いましたが、それ以上に、今回の視察の趣旨とは外れてしましますが、高齢者のＩＣチップで決済ができるという点にとっても興味を持ちました。

本田委員 地域通貨に関しましてはありだとは思いますが、今回の視察を経てじゃあ魚沼にどう当てはまるかということを見ると、現状だと少し難しいのかなと感じております。要は、何が難しいかということ、やる気の問題だと思います。それをたきつけるのも行政、あるいは議会の仕事かと感じております。そういった意味で、今後もこういった地域通貨については研究が必要なのかなと感じました。

佐藤（肇）委員 アクアコイン、私はもう少し普及しているかなと思ったんですが、全体で登録者が3割程度ということでした。市民全体に、コストをかけないでいろんな給付事業だとかそういったものをしていくということになると、8割とかというような数字が要るのかなとは思ったんですけれども、それにしてもやはりなかなか広がらないものだなというふうには感じました。どうしたらこれを魚沼市に持ってこれるかという話ですが、今ポイントカードに付けていただいているんですけども、やはり行政がもっと公共料金の支払いだとかいろんなサービスを組み入れたり、またいろんなものの対価をそこに払っていくようなやり方を取り入れていくことが大事になるのかなと感じました。

渡辺委員長 携帯アプリを使うということなので、本当に高齢者が使いこなせるのかなというところがやはり心配な点ではないかなと感じました。ただ、利便性が高いんだということと高齢者がアプリなんかを使いこなせるようになると、魚沼市のほうでも公共交通の予約アプリですとかそういったものをこれからやっていきたいと思っているところに、相乗効果で高齢者が使っていけるようになるのではないかなと。まずはお得感がないとなかなか学ぼうという気持ちになれないかなと思ったので、そういう使い方もあるかなと思いました。

B to Bで支払いに全く手数料がかからずにできるということは、通貨としてこの地域の中で循環していく。例えば市が使ったお金が2回、3回と循環していく。その辺りで期待は大きいなというふうに思いました。ただ残念だったのは、税金は一旦換金しなければいけないというところですが、ただこれも福祉のポイントですとか、うまく行政サービスとして税金ではなく別のところで使っていくならば、地域の中でポイントとして、通貨として、行政サービスとして、ぐるぐると回っていくということになると、市の経費の負担なんかは軽減されることも考えられます。先ほど、魚沼市でしようと思うと民間のやる気

がネックではないかみたいな話があったんですけども、このランニングコストというんでしょうか、アプリの会社に支払うところも市が見ていくということも、もしかしたら考えていくこともできるかもしれない。当然、民間がやってくれるのであればそのほうがいいとは思いますが、そういったことも含めて今後検討課題ではないか。市のほうでそういった研究チームなんかを作っていただき、早急にこれをどうしたら魚沼市に導入できるか考えていただきたいと思うくらいな視察でありました。

森島議長　市内の店舗の導入率はそこに書いてあるように37.8%ということで多くの障害があるとは思いますが、商工会が来年合併をするということでございますので、それを契機に仮称魚沼コイン、あるいは魚沼産コシヒカリコインなどを行政側から話し合う機会を設けてはどうかということを書かせていただきました。

小島産業経済部副部長　アクアコインについてでありますけれども、皆さんがおっしゃられたとおり、いろいろ課題等もあると思います。アクアコインを魚沼市に当てはめたとき、課題としてはやはり魚沼市内の店舗数が少ないということもありますし、さらにその加入率が悪いということになると、なかなか普及するのも難しいのではないかと考えます。あと、金融機関の協力が不可欠であるというふうに言っておりましたので、こちら辺の金融機関が対応してくれるかという心配もござります。それからゆきんこカードというものが市内では今あるんですけども、こちらもなかなか店舗数が伸びず、普及率も伸び悩んでいるところがございます。これとの関係というのも若干どうなるのかなという様々な課題等もあろうかと思っておりますけれども、今後研究してまいりたいというふうに考えております。

渡辺委員長　副部長のほうから、曾根課長のほうからもという話だったので、一言お願いします。

曾根都市整備課長　木更津市の取組については、電子地域通貨ということで地域経済の活性化と地域コミュニティの活性化、両方目的にしており、非常に有益な取組なんだと改めて感じました。経済対策とか消費喚起みたいなところで、魚沼市はプレミアム商品券を発行しているところですけども、木更津市のほうでは地域通貨のポイント還元でやっているんだということで、一回そのシステム構築をすれば同様な取組は何回でもできるということなので、そういう部分では行政経費はかなり軽減されるんじゃないかなというふうには感じました。ただ、委員さん方がおっしゃられるように、全体的なシステムを魚沼市で導入するとなった場合、加盟数の規模だとか、皆さんの使い勝手のよさだとかいろいろ課題はあるかなというふうには感じました。一緒に研究は進めていきたいと思いました。

渡辺委員長　次に、千葉県大多喜町のいすみ鉄道の活用についてということで、また報告をいただきたいと思えます。

桑原委員　只見線に関係するので、有効な視察だったと思います。私自身もそうですけれども、熱意が違ったなということを非常に感じました。聞いていて一生懸命でしたし、資料を見ても細かいところまで考えてみんなに参加できるような提案なんかもされていたので、自分がちょっと恥ずかしいなという感じもしました。

星委員　廃路も考えられていたいすみ鉄道は、非常に只見線に似ているとは思いました。公募によって来られた鳥塚さんの影響が非常に大きかったと思うんですけど、その辺をもう少し聞ければよかったなと個人的に反省しています。ただ、高校生たちが移動手段ではな

くて乗ることが目的になるような只見線にしていかなければいけないなとすごく感じました。

浅井委員　　今ほど星委員のほうからもありましたけれども、非常に只見線によく似た状況であり、やっていることも大体只見線と同じことをやっているにもかかわらず、魚沼市と何かが違う。それが何なのかと考えていると、魚沼市全体の地域の一体感がないんじゃないのかなと、もやもやしなから帰ってきました。

本田委員　　小さな町ですけれども少なからずお金を出しているわけであって、非常に財政上も大きな負担になっているのではないかなというふうに感じました。ただ一方で、今ほど委員さんが話されたとおり、本当に鉄道のためにみんなが一生懸命になっているといったところを感じますと、それもそれでいいのかなと思ったりもしました。あと、せっかく議長さんも来られていたので、議長さんから議会の様子もお伺いできたらなと思いました。時間の都合でできなくて、それが残念でした。視察に議長が最後までいるというのものなかなかないと思うので、そこら辺は我々ももったいないことをした。そこが反省点です。

佐藤（肇）委員　　いすみ鉄道なんですけど、やはり只見線とは違って1時間に1本のダイヤがあるというのは地域の足というか公共交通としての役割が相当果たしている。当然、子どもたちの通学などの利用があるということで、いいなあというふうに思ってきました。その中で、かつてはイベントでいろんな形で企画をして盛り上げてきましたが、車両が減ってきてそれがままならなくなっている状況も話を聞きました。やはり三セクという会社の運営は、資本的な投資がかなり難しいのかなというふうに感じてきました。魚沼市はまだJRさんが只見線をやっていたらいいんですけども、これについても当然今後何かあれば上下分離みたいな話が出てくるんだろうなと。市としても確保しながらどうやっていくのかという辺りは検討が必要なのかなというふうに思いました。

渡辺委員長　　まだJRが運行も一切してもらっているというところと、地域と民間事業者等で運営しているというところでは全く危機感というんでしょうかね、そういったものが違うというふうには感じました。各沿線の市町村もそれなりにしっかりと下の部分にお金を入れるというところや、町の人たちも無くしては困るということで横断的な考え方があるところがすごいなと思いました。魚沼市がこれから只見線をどうするんだと考えたとき、上下分離される前に乗客を増やしていくためにしっかりとお金を使っていく。今は、スイカなんかは本当に小千谷と湯沢までですよ、いつ頃どうなるのか分かりませんが。そういったところもJRと話をしながら、魚沼市としてお金をかけられる部分はかければいいんじゃないかなと。そうすることで乗客が増え上限分離も回避できるのであれば、かえってそういうお金の使い方も私はあっていいかなと思った次第です。

森島議長　　書いたのを読ませていただきます。只見線も新潟・福島豪雨災害から早13年。列車運行は上下分離式により地元自治体の費用負担は、毎年約3億円の施設維持管理費は県と地元市町村が負担。只見一小出間の輸送密度は2020年度であります82人。100円稼ぐのに7,845円かかっております。まさに、いすみ鉄道と同じ境遇であったというふうに考えました。田中角栄元首相は「地方の経済発展のためやむを得なければ、鉄道は赤字を出してもよい」と言った時代から、住民の手による「愛鉄」と変わらなければ維持できないことを感じた研修でした。沿線職員・議員は月一度の通勤等に只見線、「公共交通」を使うことを提唱し復命とさせていただきます。

続いて、④総括ということで書きました。各視察先では、予定していた時間をオーバーするほど各委員、行政職員ともに熱心に質疑をし、見聞を広めてまいりました。この研修が1年あるいは3年後に生かされるよう、今後の魚沼市の行政の一助となるよう、努力をしていきたいという感想で、私の議長としての復命にさせていただきます。

渡辺委員長　議長、ありがとうございます。では最後に、今回は先に曾根課長のほうからお話していただければと思います。

曾根都市整備課長　いすみ鉄道については、第三セクターということで当市の只見線とは運営形態が違います。ただ抱えている問題は同様なんだというふうに思いました。お話にあったんですが、宿泊施設がほとんどないという中で観光誘客にそこまで積極的に取り組まれているというのは、本当に路線存続、活性化のために皆さん御苦労されているんだというふうに感じたところです。只見線、上越線もそうだと思いますが、いかに観光誘客と結びつけいくことができるのか、行政、地域の住民の方々、観光事業者さん、鉄道事業者さん、連携して進めることが重要だと、当たり前ですけども改めて感じたところです。

渡辺委員長　ありがとうございます。最後に、小島副部長のほうからまとめていただければと思います。

小島産業経済部副部長　いすみ鉄道の視察なんですけれども、赤字解消のために観光誘客、それから営業努力を大変なさっていたと感じました。特にレンタサイクルについてはもちろんなんですけれども、人力車、それから2人乗りの小型電気自動車等の貸出も行ってまして、二次交通にも工夫をしていたなという印象がありました。また、地域おこし協力隊も活用されておまして、駅から下車した後のハイキングコースなどそういったものを作ったりして、大多喜町の歴史的な建物、それから名所なんかを巡るような、そういった工夫もされていたと思いました。地域、鉄道会社、観光協会、それぞれがこの鉄道を守っていこうという取組が全面的に出ていたというふうに感じました。只見線の活性化についてこれに置き換えますと、行政としても今回の視察をさせていただいて様々な取組があるのだなと思いました。こういったものも生かしながら活性化に取り組んでいかなければならないと改めて考えさせられた研修でございました。

渡辺委員長　ありがとうございました。皆さんの意見を以上でまとめさせていただきまして、総括としていきたいと思えます。また魚沼市においても、先進技術の開発、地域経済の活性化、観光誘客と参考になる事業がたくさんございました。先ほど議長のほうからも1年、あるいは3年後に生かされるよう、今後の魚沼市の行政の一助となるよう努力していくということは、この産業建設委員会でこれからも引き続き調査等行ってまいりたいと思えます。以上で日程第1を終了させていただきます。

## (2) その他

渡辺委員長　続きまして日程第2、その他を議題といたします。まず執行部から、浅草山荘設備の破損について発言を求められておりますのでこれを許します。

小島産業経済部副部長　それでは浅草山荘の設備の破損について報告をいたします。(資料「浅草山荘　ろ過器破損について」により説明)

渡辺委員長　それではこれから質疑に入りたいと思えます。質疑はございませんか。

それでは、見積もりをこれから取るところだと思んですけども、予算というか予備費というか、それで間に合いそうな金額でしょうか。

小島産業経済部副部長　金額によってはもしかしたら予備費の活用もあるかもしれませんが、今のところは既決予算の中でなんとかできるのではないかと考えております。

桑原委員　洞窟風呂のものを持ってくるという説明があったんですが、洞窟風呂では何年使っていたんでしょうか。

小島産業経済部副部長　洞窟風呂のろ過器の年数は今確認しておりませんので、後ほどお答えしたいと思います。

桑原委員　とりあえずというか仮運転で、委員長がおっしゃったとおり見積もりを取って正式に替えるということですか。

小島産業経済部副部長　製品自体は洞窟風呂のものを転用してそのまま運転をする予定でありますので、応急処置というわけではなくそのまま運転させていただきます。

渡辺委員長　ほかに質疑はございますか。(なし) なければ、本件については以上といたします。ほかに執行部から何かございますでしょうか。(なし) 委員の皆さんのほうから御意見、協議事項等がありますでしょうか。(なし)

なければ、以上で本日の日程は全て終了いたしました。本日の会議録の調整については委員長に一任願います。本日の産業建設委員会はこれで閉会といたします。

閉　　会（11：55）